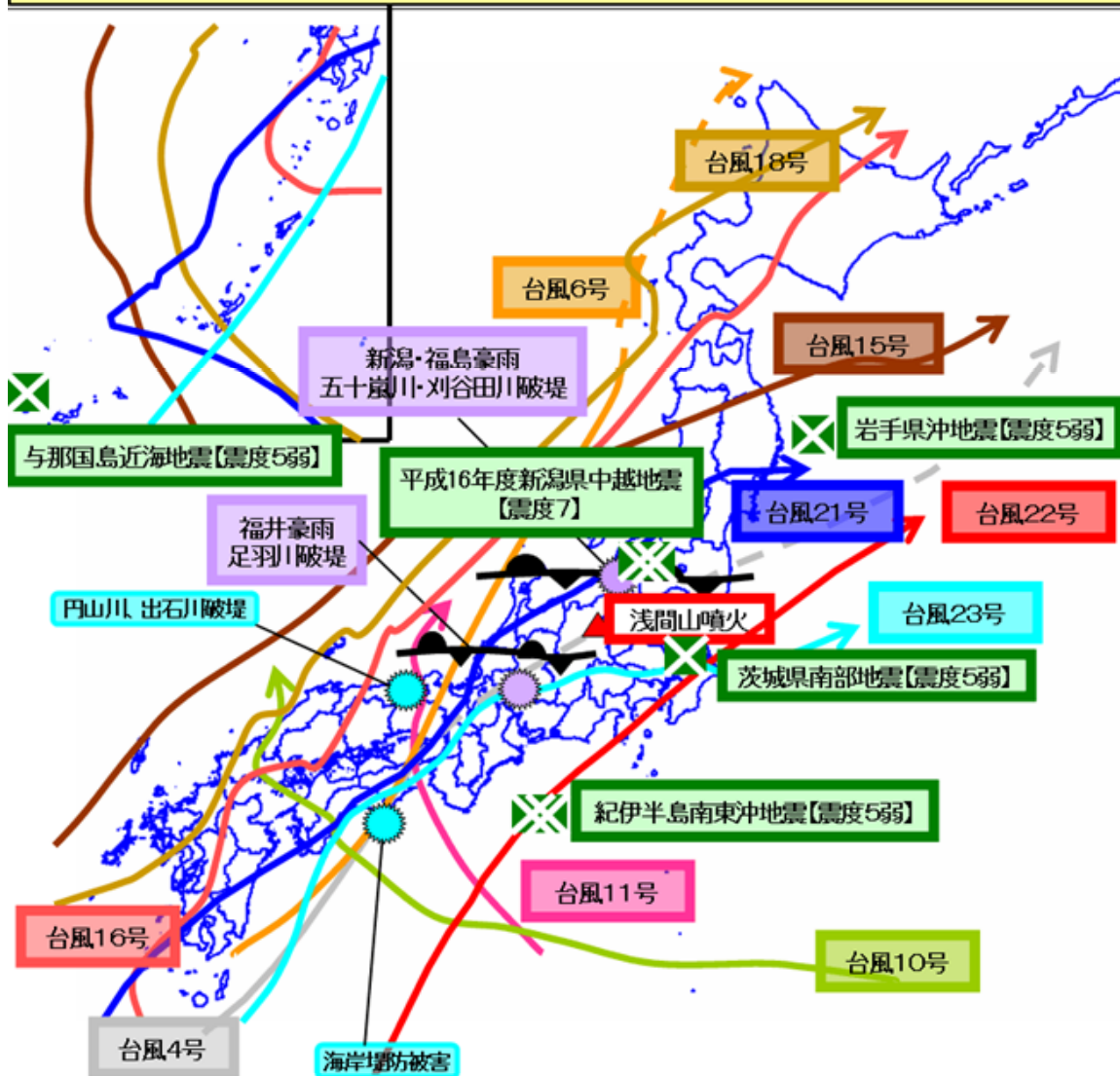


資料-2

近年の風水害について

平成16年度 自然災害発生状況

過去最大の10個の台風が
日本に上陸(例年の4倍)し、各地で浸水被害が発生



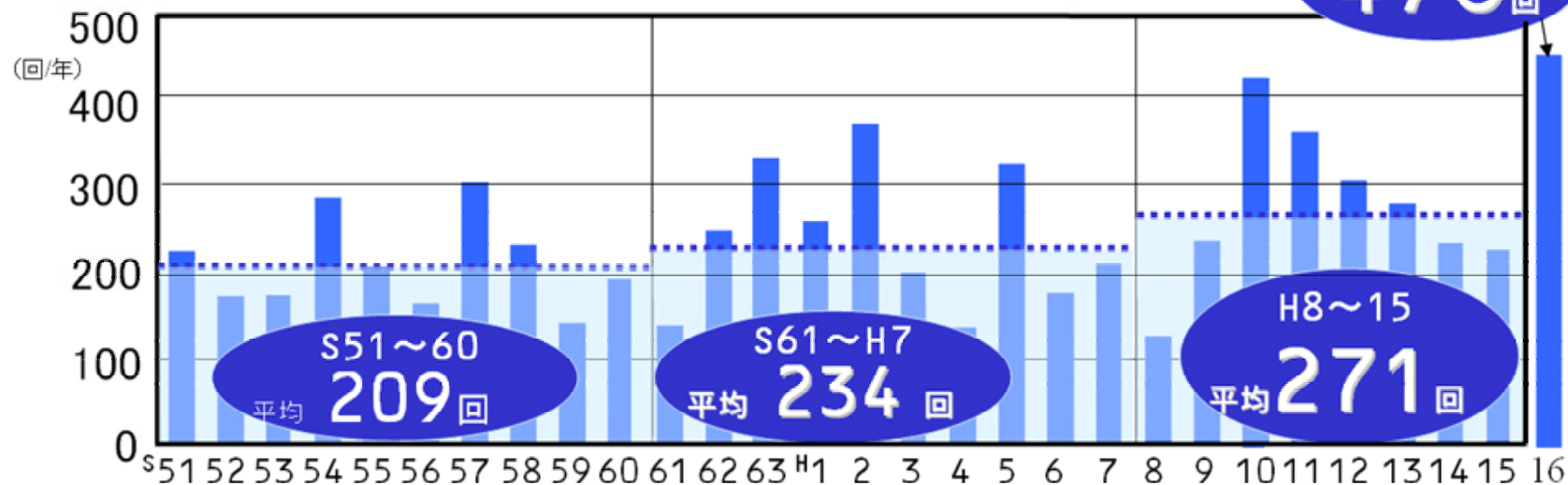
平成16年度の主な災害

日	災害	死者・ 行方不明	住家被害
6月 11 18~22	台風4号 台風6号 (静岡県、徳島県)	- 5	- 194
7月 12~13 17~18 29~ 8/2	新潟・福島豪雨 (新潟県、福島県) 福井豪雨 (福井県、山形県等) 台風10号 (徳島県、高知県等)	16 5	13,875 14,156
8月 5 10 17~20 27~31	台風11号 (三重県等) 岩手県沖地震 (岩手県等) 台風15号 (愛媛県、香川県等) 台風16号 (熊本県、宮崎県、鹿児島 県、徳島県、香川県、愛媛 県、広島県、岡山県等)	- - 10 17	- - 3,286 53,727
9月 1 5 4~8 25~30	浅間山火山噴火 紀伊半島南西沖地震 (三重県等) 台風18号 (北海道、兵庫県、広島県、 岡山県、香川県等) 台風21号 (三重県、愛媛県、岡山県、 兵庫県等)	- - 45 27	- - 51,500 21,969
10月 6 7~9 15 18~21 23	茨城県南部地震 台風22号 (東京都、千葉県等) 与那国島近海地震 (沖縄県) 台風23号 (兵庫県、京都府、高知 県、岡山県、香川県、富 山県、長野県等) 平成16年(2004年) 新潟県中越地震	- 8 - 96 40	- 9,745 - 71,087 106,598
合計		273	348,867

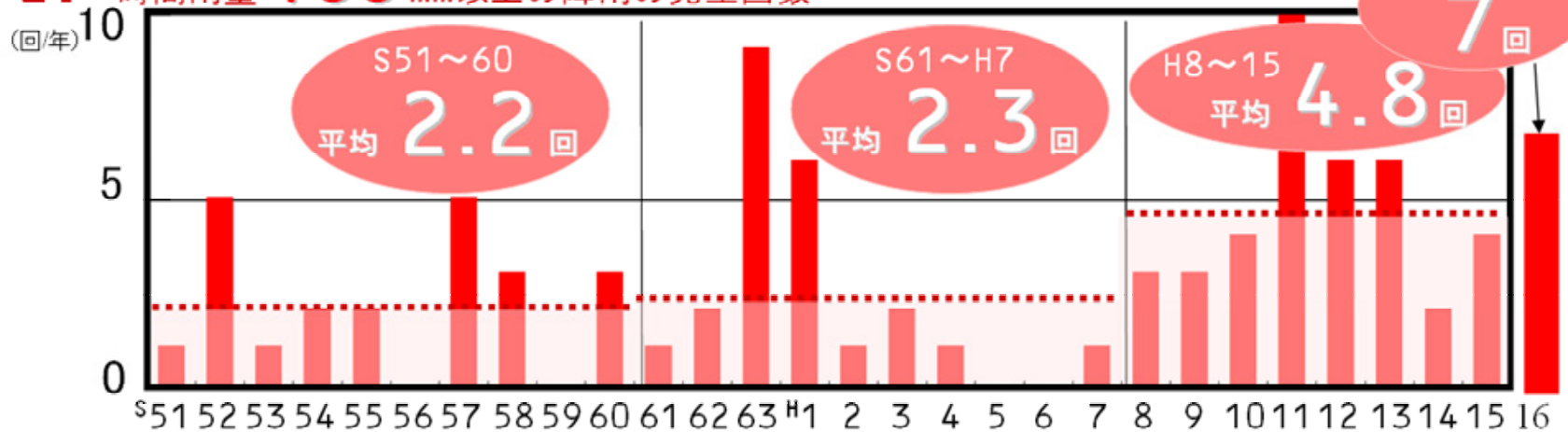
※消防庁調 平成17年1月12日15:30現在

1時間降雨量における年間延べ件数
(全国のアメダス地点 約1,300箇所より)

1. 時間雨量 50 mm以上の降雨の発生回数

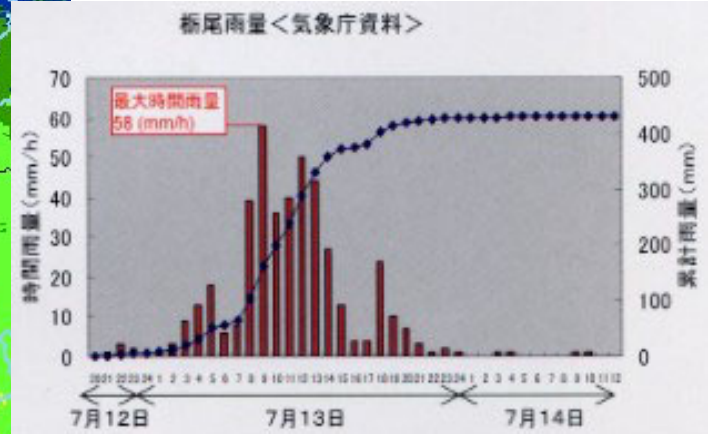
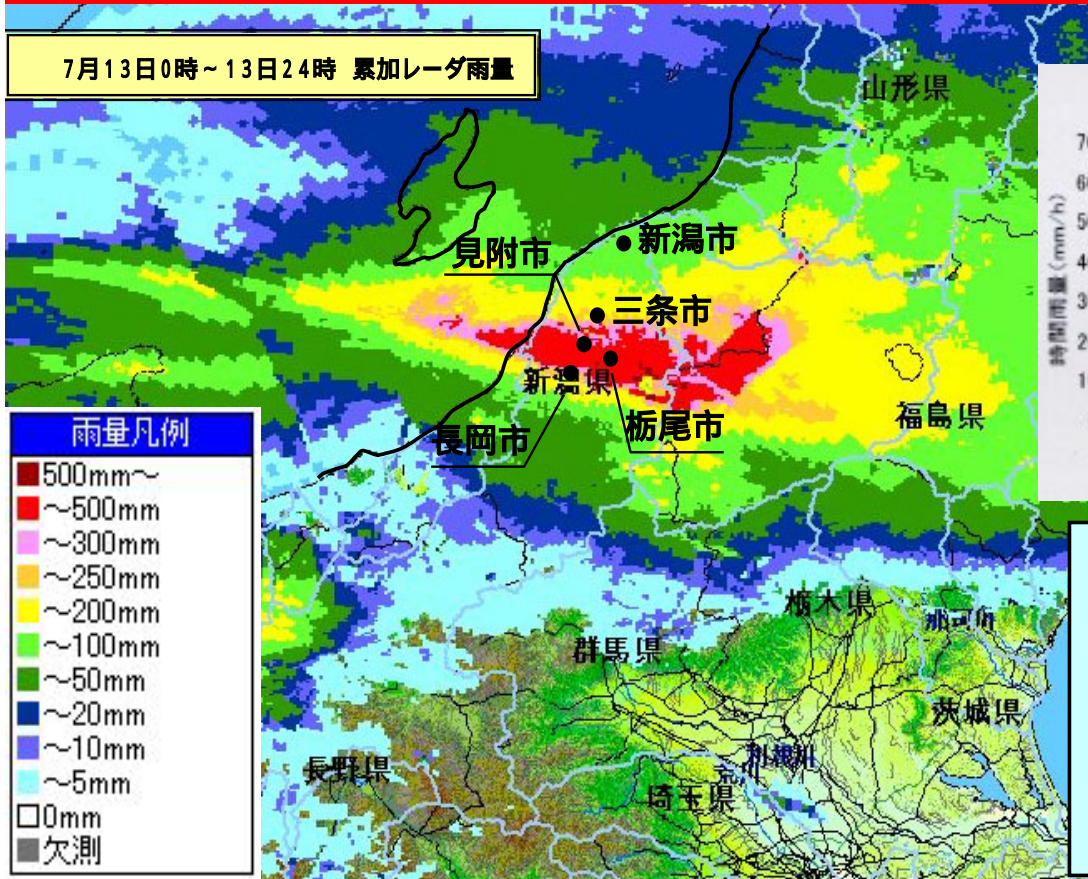


2. 時間雨量 100 mm以上の降雨の発生回数



平成16年7月12日深夜から13日にかけて、梅雨前線の停滞により総雨量431mm(栃尾観測所)におよぶ記録的な集中豪雨となり、この降雨により五十嵐川、刈谷田川等、新潟県内の補助河川6河川の堤防が11箇所で堤壊し、死者16名の人的被害と約8,400戸の浸水家屋を発生させる大惨事となった。

たった1日間で、平年の7月の1ヶ月分を大きく上回る降雨。



降雨のデータ

栃尾観測所日雨量421mm
 観測史上最大(2位:S36.8.の1.2倍)
 7月平年243mmの1.7倍
 信濃川下流流域平均2日雨量270mm
 S53.6:335mmに次ぐ戦後第2位。
 降雨確率1/150に相当。

平成16年7月福井豪雨による大水害

【足羽川（福井県）】

平成16年7月18日明け方から昼前にかけて、梅雨前線の活動の活発化により総雨量285mm（美山観測所）に達する記録的な集中豪雨となり、この降雨により福井市街部を貫流する足羽川の左岸堤防が破堤、左岸2箇所で越水が発生し、4,067戸（床上2,395戸、床下1,637戸）の浸水家屋を発生させる大水害となった。



降雨のデータ

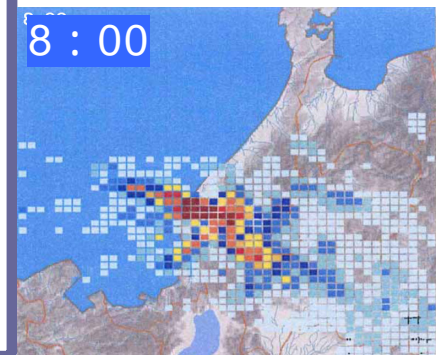
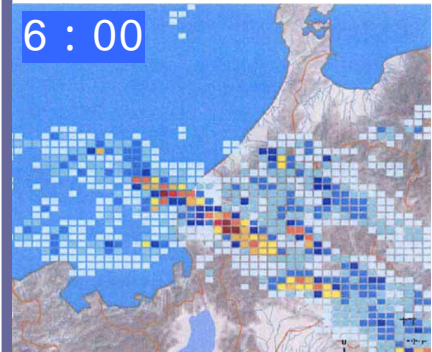
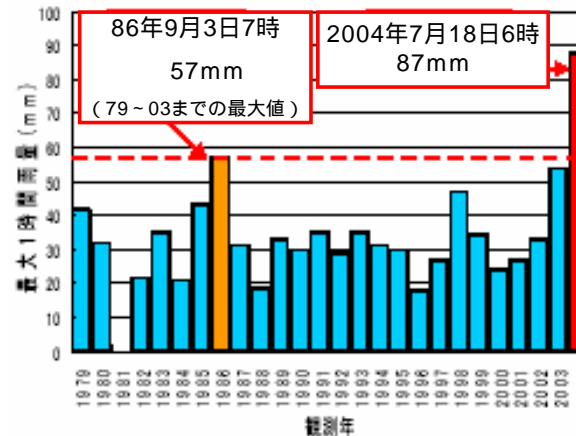
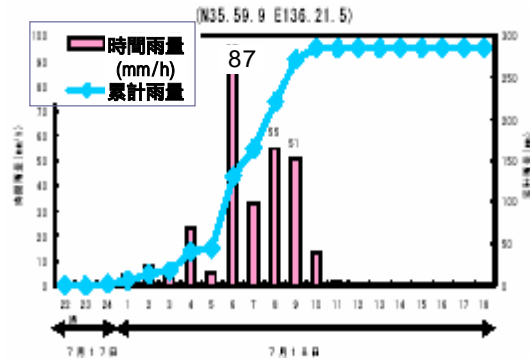
美山観測所 日雨量 283mm

観測史上最大（2位：H7.7の約2倍）

美山観測所 時間雨量 87mm

観測史上最大（2位：S61.9の1.5倍）

降雨状況 福井県足羽郡美山町
気象庁アメダス観測所



北海道平取町で観測開始以来第1位の雨量を記録

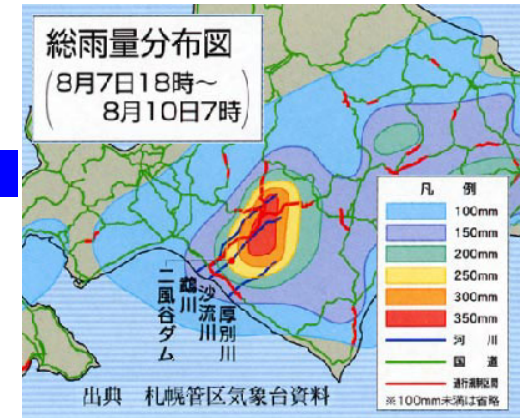
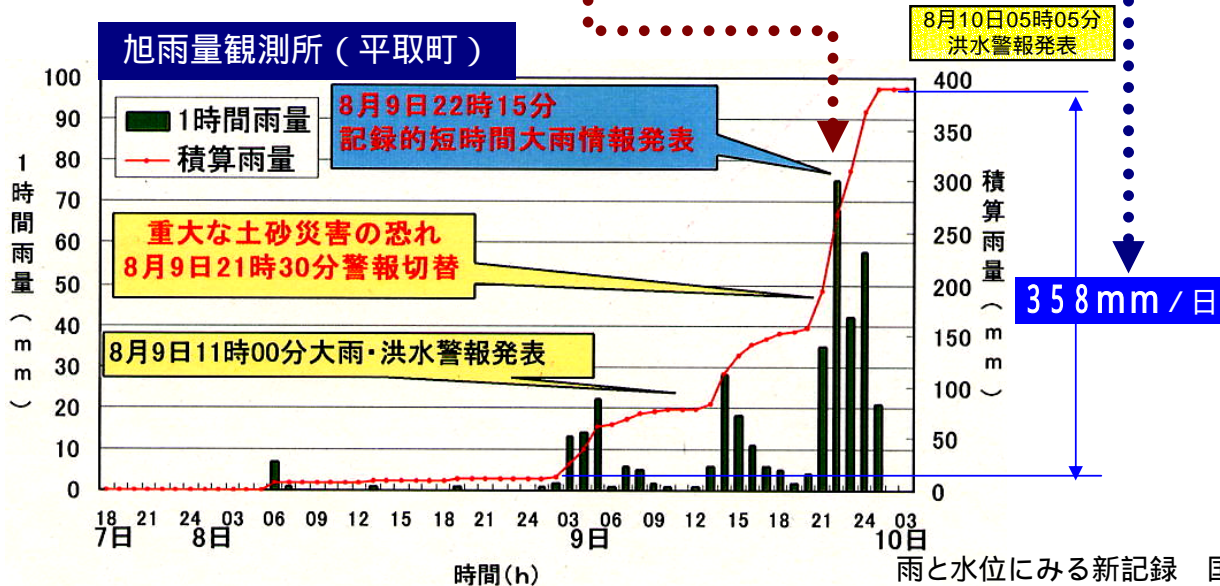
2003年8月9日夜、東北地方を北東に進んだ台風第10号は、熱帯気団特有の暖かく湿った空気を北海道に送り込み前線を非常に活発化させ、北海道日高地方では記録的な大雨となった。

時間雨量76mm（8月9日午後9時～10時）
 これまでの記録の2.2倍
 （これまでの記録は35mm：1992年8月9日）
日高支庁内でも観測開始以来第1位の記録

日雨量358mm（8月9日）
 これまでの記録の2.5倍
 （これまでの記録は143mm：1992年8月9日）
 年平均雨量の3割強の雨が1日で降った
日高支庁内で観測開始以来第1位の記録
 北海道内225箇所のアメダスで歴代3位

各地で記録更新が続出

- ・北海道内での日雨量の記録のうち、3位、8位、10位を今回の豪雨で記録
- ・日雨量の第1位を記録した地点は、胆振・日高・十勝・釧路の4支庁で合計9箇所
- ・全国の18箇所の日雨量の記録を更新



平成15年は、北海道平取町、福岡県太宰府市、熊本県水俣市において時間雨量の記録を更新

日雨量については、北海道平取町、福岡県太宰府市、富山県高岡市、高知県室戸市、徳島県穴喰町において記録を更新

総合的な豪雨災害対策についての緊急提言及び 豪雨災害対策緊急アクションプランの概要

1. 今年の災害の特徴と新たな課題 今年の水害、土砂災害、高潮災害等から、自然的状況、社会的状況の変化による新たな災害対策の課題が明らかになった。

1. 自然的状況

局所的な集中豪雨が多発

・流域が比較的小さい中小河川での洪水や土砂災害の増大
・洪水予測等があまり行われていなかった中小流域での情報提供の充実をはじめ迅速な警戒避難体制が必要

これまでの記録を超える降雨量、高潮の波高・波力などが各地で発生

・自然の外力は施設能力を超える可能性が常にあることをふまえた備えが必要

破堤が多数発生。多くの人命、財産を失うだけでなく、後片づけなど事後対応も大変

・破堤のように災害現象が急激に拡大することがないように対策が必要
・災害現象の急激な変化を念頭においた避難警戒体制が必要

2. 社会的状況

高齢者や保育園児などの災害弱者の被災が特徴的

・少子高齢化に対応した警戒避難体制の確立が必要

旧来型の地域コミュニティの衰退、水防団員の減少と高齢化など地域の共助体制が弱体化

・近年の社会的状況を踏まえた共助体制の再構築が必要

避難勧告の発令や伝達の遅れや、伝達されても避難しない人が多数

・住民や自治体等の災害経験が減少し、危機意識も低下している中でも、災害時に的確な認識や行動がなされるような仕組みが必要

地下鉄、地下街など地下空間利用が増加している中で地下空間が多数浸水

・都市の地下空間の浸水に対する防御と的確な避難誘導体制の構築が必要

2. 今後の対策の基本的方向

今年の災害から明らかになった新たな課題に的確に対応しつつ、今後の投資余力に限られる中で、できるだけ早期に安全度を高め、被害を最小化することが基本的命題

ソフト対策とハード整備が一体となった減災体制の確立 治水安全度の早期向上のための多様な整備手法の導入、既存施設の有効活用、管理の高度化

1. 災害時に、よりの確に住民が避難等の行動をでき、自治体が防災活動を行えるよう、地域別のわかりやすい予測情報や氾濫情報など、的確な避難に役立ち、被害軽減に必要な情報を充実する。(送り手情報から受け手情報へ)
2. 災害経験があまりない住民や自治体等も、災害発生時に的確に行動できるよう、各地域で発生する可能性のある災害についての情報(災害環境情報)及び災害時にとるべき行動についての情報(災害行動情報)が平常時から共有される社会への転換を図る。
3. 地域の災害対応力の脆弱化や都市構造の変化等を踏まえ、防災施設の整備途上等において、施設能力を超える自然の外力が発生し施設が破壊した場合にも、壊滅的な被害とならないよう、施設的设计・運用の高度化や万が一の場合の危機管理体制を構築する。
4. 近年増加傾向にある集中豪雨等の発生や計画を超える自然の外力の多発を踏まえ、土地利用状況によって異なる安全度の設定や操作ルールの変更による既存施設の有効活用など、従前の計画論にこだわらず多様な整備手法を展開する。
5. 少子高齢化、旧来型の地域コミュニティの衰退、都市構造の変化などの社会的状況の変化も踏まえて、多様な主体の参加による水防体制、平常時から地域の住民が参加する様々な防災活動、広域的な支援体制などの展開により、自助、共助、公助のバランスのとれた地域の防災力の再構築を支援する。